

2025年5月26日（月）
愛知県保健医療局感染症対策課
感染症グループ
担当 山本、田中
内線 5193、3777
ダイヤルイン 052-954-7490

麻しん（はしか）患者の発生に伴う注意喚起について

2025年5月23日（金）、名古屋市天白区内の医療機関Aから名古屋市保健所に麻しんの発生届（臨床診断例）が提出され、5月26日（月）、名古屋市衛生研究所で遺伝子検査を実施したところ、麻しん陽性であることが判明しました。

患者の所在地を管轄する瀬戸保健所が疫学調査を実施したところ、他人に感染させるおそれがある時期に下記のとおり不特定多数の人が利用する施設等を利用していたことが分かりました。

本公表は、当該施設等を利用した方が麻しんウイルスに感染している可能性があるために、広く情報提供するものです。

記

1 患者概要

患者：40代 男性（愛知郡東郷町在住） 麻しん予防接種歴不明
主な症状：発熱、咳、結膜充血、コプリック斑^{※1}、発疹
渡航歴：なし

※1 麻しんの発症初期に口腔内に現れる青みがかった白色の斑点

2 発生までの経緯

5月21日（水） 発症（発熱）、医療機関B（日進市）を受診^{※2}
22日（木） 医療機関B（日進市）を受診^{※2}
23日（金） 発疹、咳、結膜充血、コプリック斑
医療機関A（名古屋市天白区）を受診^{※2}
発生届提出、検体採取
26日（月） 遺伝子検査の結果、麻しんと確定

※2 受診の際は自家用車を利用しております。

3 患者の主な滞在先

5月21日（水） 9:00～12:00 頃 医療機関B（日進市）^{※3}
22日（木） 9:00～12:00 頃 医療機関B（日進市）^{※3}
23日（金） 14:00～17:00 頃 医療機関A（名古屋市天白区）^{※3}

※3 施設名の公表について、同意が得られませんでした。

* 施設への問い合わせは、慎んでいただきますようお願いいたします。

* 現時点においては、麻しん患者が利用した施設を利用しても感染の恐れはありません。

【麻しん患者と接触が疑われる皆様へ（注意喚起）】

- 麻しん患者と接触した場合は、発病までの期間を考慮し、接触後最大21日間の健康観察が必要です。
- 発熱、発疹等の症状から「麻しん」が疑われる場合は、必ずマスクを着用し、事前に医療機関に「麻しんかもしれない」ことを連絡の上、速やかに受診してください。また、受診の際は、周囲の方へ感染を拡げないよう、公共交通機関等の利用を避けてください。心配なことなどがありましたら、最寄りの保健所に御連絡ください。

4 参考（全国及び本県における麻しんの発生状況）

年次	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
全国	279	746	10	6	6	28	45	116※ ⁴
愛知県	37	41	2	2	0	2	2	11※ ⁵

※4：2025年5月20日時点 国立健康危機管理研究機構 速報値

※5：2025年5月26日時点 暫定値

- ① 2月21日大阪府届出分、② 3月1日名古屋市届出分、③ 3月21日愛知県届出分
 ④ 3月28日愛知県届出分、⑤ 3月31日岡崎市届出分、⑥ 4月8日愛知県届出分
 ⑦ 4月8日岡崎市届出分、⑧ 5月1日名古屋市届出分、⑨ 5月7日名古屋市届出分
 ⑩ 5月21日名古屋市届出分、⑪ 5月23日名古屋市届出分

本県における発生状況の詳細については、県衛生研究所のWebページ「本県における麻しん・風しん患者発生報告状況」に掲載しています。（URL：https://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/msl/msl_ichiran.html）

※本情報提供は、感染症予防啓発のために行うものですので、報道機関各位におかれましては、患者等の個人に係る情報について、プライバシー保護等の観点から、提供資料の範囲内での報道に、格段の御配慮をお願いします。

○麻しん（はしか）について

主な症状	38℃前後の発熱 が2～4日間続き、咳や鼻水といった 風邪のような症状 が出ます。その後、高熱（多くは39℃以上）が出るとともに、 発疹 が出現します。多くは7～10日で症状が回復します。 肺炎や中耳炎を合併することがあり、患者1,000人に1人の割合で脳炎が発生するとされています。
感染経路等	空気感染※、飛沫感染、接触感染によりヒトからヒトに感染が伝播します。その 感染力は非常に強い と言われており、 感染する期間は、発症の1日前から解熱後3日頃までとされています 。 免疫を持っていない人が感染するとほぼ100%発症し、一度感染して発症すると一生免疫が持続すると言われています。 ※麻しんウイルスの空気中での生存期間は2時間以下と言われています。
潜伏期間	約10日～12日間
治療法	特異的な根治療法はなく、対症療法を行います。
予防方法	・麻しんは感染力が強く、手洗い、マスクのみで予防はできないため、 麻しんの予防接種が最も有効です 。海外渡航を計画している方、麻しんのワクチンを2回接種していない方等は、予防接種を検討することをお勧めします。 ・麻しん患者と接触した場合、接触後72時間以内であれば緊急ワクチン接種により発病を予防できる可能性があります。